

# 高校公民プリント（過去問類似）

## 西洋の近現代思想 No.10

名前

得点

/10

**問1** 民主主義社会において、画一的な世論が少数派の多様な意見や個性を抑圧する「多数派の専制」の危険性を指摘し、他者に危害を及ぼさない限り個人の自由は制限されるべきではないという原則を提示した、イギリスの思想家による著書は何か。 (2015年 全国公立入試 類似)

1. 『資本論』                      2. 『自由論』                      3. 『国富論』                      4. 『君主論』

**問2** 「実存は本質に先立つ」と主張し、人間はあらかじめ決められた本質を持たず、自らの選択と行動によって自己を形成していく対自存在であると説いた、フランスの実存主義哲学者は誰か。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. サルトル                      2. マルセル                      3. ブーバー                      4. ニーチェ

**問3** 14世紀から16世紀にかけてのヨーロッパでは、中世の神中心の価値観から脱却し、古典古代の文化を手がかりに、人間のありのままの姿や現実世界の美しさを肯定しようとする文芸・芸術上の革新運動が起こった。この運動の根底にあり、人間の尊厳や個性を重んじる人間中心の精神を何というか。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. プラトニズム                      2. ネオプラトニズム                      3. マキャベリズム                      4. ヒューマニズム

**問4** 人間は感性的な欲求に支配される存在であるが、同時に実践理性によって自ら道徳法則を立て、これに自発的に従うことができる。このようなあり方を「自律」と呼び、互いの人格を単に手段としてのみ扱うのではなく、常に同時に目的として尊重し合う理想の共同体を「目的の王国」と名付けた、ドイツ観念論の哲学者は誰か。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. カント                      2. シェリング                      3. フィヒテ                      4. ヘーゲル

**問5** ドイツの哲学者が提唱した、人間の主観に備わる認識能力が感覚的素材を整理して対象を構成するという、認識と対象の関係を逆転させた認識論上の変革を何と呼ぶか。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. デカルト的懐疑                      2. コペルニクス的転回                      3. ヘーゲルの弁証法                      4. スピノザの一元論

**問6** 学校で学んだ従来の学問に確実な基礎がないと疑問を抱いたフランスの哲学者が、学校を去って旅に出て、様々な身分の人々との交わりや経験を通じて真理を探究しようとした。この探究の対象を、彼は著書『方法序説』の中で何と表現したか。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. 精神と身体の二元論                      2. 世間という大きな書物                      3. 明晰かつ判明な観念                      4. 我思う、ゆえに我あり

**問7** 近代社会において、規則に基づく専門的な分業や階層的な組織運営によって効率性を追求する管理体制が、社会全体を覆うことで個人の自由や主体性を抑圧する危険性について、ドイツの社会学者ウェーバーが指摘したこの組織形態を何というか。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. 分業制                      2. 官僚制                      3. 階層制                      4. 集権制

**問8** 「実存は本質に先立つ」と主張し、人間はあらかじめ定められた本質を持たず、自らの行動と決断によって自己を形成していく存在であるとした。この、神なき世界において人間が自らの意志で行動を選択する責任を負わされている状態を「自由の刑に処せられている」と表現したフランスの哲学者は誰か。 (2006年 全国公立入試 類似)

1. ニーチェ                      2. マルセル                      3. サルトル                      4. ブーバー

**問9** 現代の科学技術文明において、人間は自然を単なる利用可能な資源（用具）として榨び取る仕組みに支配されていると批判し、人間はこのような支配から離れて、根源的な存在の呼びかけに耳を傾けるべきだと主張したドイツの実存哲学者は誰か。 (2006年 全国公立入試 類似)

1. ハイデッガー                      2. ヤスパース                      3. マルセル                      4. サルトル

**問10** 個人の身体や正当に獲得した財産に対する絶対的な権利を重視し、社会全体の福祉や弱者救済を目的とするものであっても、国家による課税や財産の強制的な再分配は個人の権利を侵害する不当な介入であるとして、政府の役割を最小限に抑えるべきだと主張する、現代の政治・倫理思想を何というか。 (2026年 全国公立入試 類似)

1. イガリタリアニズム                      2. リベラリズム                      3. コミュニタリアニズム                      4. リバタリアニズム

## 答え合わせ・解説 No.10

問1	答え 2 『自由論』	ミルは著書において、民主主義社会における画一的な世論が、少数派の多様な意見や個性を抑圧する「多数派の専制」を論じ、個人の自由を不当な社会的圧力から保護することの重要性を主張した。また、個人の自由に対する制限は、他者に危害を及ぼすのを防ぐ場合にのみ正当化されるといって「他者危害の原則（危害原則）」を唱えた。
問2	答え 1 サルトル	『実存主義とは何か』などの著作で知られるフランスの哲学者サルトルは、人間を、自己を意識し未来に向けて自己を投企していく対自存在として捉えた。彼は、人間にはあらかじめ定められた本質はなく、自らの自由な選択によって自己を創り出していく存在（実存は本質に先立つ）であると主張し、社会的・政治的実践（アンガージュマン）の重要性も説いた。
問3	答え 4 ヒューマニズム	14世紀からイタリアを中心に始まったルネサンスの根底には、中世の神中心・教会中心の権威主義的な人間観から脱却し、ギリシア・ローマの古典古代の文化を手がかりにして、人間らしい生き方や個性の自由な開花を求めようとする精神があった。この人間中心の精神はヒューマニズム（人文主義）と呼ばれる。芸術分野においても、遠近法などを用いて現実世界や人間の肉体の美しさをありのままに表現する試みがなされた。
問4	答え 1 カント	実践理性が自ら立てた道徳法則に自発的に従うことを「自律」とし、これを真の自由とみなした。また、互いの人格を手段としてのみならず目的として尊重し合う理想の共同体を「目的の王国」と呼んだ。この思想を唱えたのは、18世紀ドイツの哲学者であるイマヌエル・カントである。
問5	答え 2 コペルニクスの転回	カントは、認識が対象に従うのではなく、主観の認識能力によって対象が構成される（対象が認識に従う）と考えた。この認識論における劇的な発想の転換は、天文学における地動説への転換になぞらえて「コペルニクスの転回」と呼ばれる。
問6	答え 2 世間という大きな書物	デカルトは、学校で学んだスコラ哲学などの学問に確実な基礎がないと疑問を抱き、学校を去って「世間という大きな書物」を学び、自己の理性を頼りに確実な真理を探究した。これがのちに「方法的懐疑」を経て「私は考える、ゆえに私はある」という哲学の第一原理の発見へとつながった。
問7	答え 2 官僚制	ウェーバーは、近代社会の合理化に伴って発達した、規則による支配と専門的な分業を特徴とする組織形態が、人間を機械の歯車のように管理・支配し、個人の主体性や創造性を奪う危険性を指摘した。
問8	答え 3 サルトル	人間にはあらかじめ決められた本質や拠って立つべき絶対的な価値基準がなく、常に自ら選択し行動する責任を負わされている状態を「自由の刑に処せられている」と表現した。この思想を展開したのは、フランスの実存主義哲学者である。
問9	答え 1 ハイデッガー	現代の科学技術が自然を単なるエネルギー資源や利用可能な道具として支配・管理するあり方を批判し、人間がその技術的な枠組み（ゲシュテル）に囚われていることを指摘した。彼は、人間が本来のあり方を取り戻すためには、技術による支配から脱し、根源的な存在そのものの現れや呼びかけに静かに耳を傾ける態度が必要であると説いた。
問10	答え 4 リバタリアニズム	個人の自由や自己所有権を最大限に尊重する立場であり、国家による介入や財産の強制的な再分配を最小限に抑えるべきだと主張する。ロールズらが提唱する福祉国家的な再分配を批判する文脈で、ノージックらによって理論化された。